平成15年度　12月議会　一般質問書

通告に従い順次質問を致します。
まず、財政問題について何点か質問致します。平成16年度の予算編成方針が提示されましたが、平成10年度以降、市税収入の減少が続き、平成16年度についても大幅な減収が予想されています。一方支出については、いわゆる経常経費の増加が続き財政状況は極めて厳く、平成16年度予算要求については対前年比-5㌫の緊縮予算を担当部に要請すると言う事です。この様な状況に加え、地方財政の改革を訴える政府は「三位一体」改革を実施し、平成18年度までに補助金を4兆円削減し、平成16年度は1兆円を削減しようとしています。税源の移譲も検討されていますが、削減分全額委譲される事は考えられず、地方財政に取っては益々厳しい状況に成るのではないかと思います。この様な状況の中で、三郷市の財政状況について、どの様な認識を持っているのか、又、その対応について伺いたいと思います。

　市長は、平成6年に三郷市政を担当されました。この時期は、バブル経済が崩壊し、市政にも少なからず影響が出始めていました。平成7年には、人口減少が始まり、又、市税収入の伸びが止まり、毎年の様に「簡素で効率的な行政運営に努め、補助金の抜本的な見直し」等述べら行政改革の必要性とその実効を訴えてきました。その実効はどうだったのでしょうか。立派な行政改革の大綱は出来ていますが、実効の程はどうでしょうか。改革の認識とは別に一律何㌫減と言う手法で改革を先送りしてきたのではないでしょうか。　私は、9月議会で足立区の包括予算制度について提案しましたが、市長答弁は「早々に検討したい」と前向きの答弁がありました。
しかし、平成16年度の予算編成方針は従来発想から抜け出す事が出来ない様です。

　包括予算制度は予算の執行権を担当部に渡し、担当部同士のいわば競争原理、庁内分権をする事により政策の競い合い、人の活性化等、より効率的な市政を実現しようとする試みです。先送り、一律削減と言った余りにも安易な方法では早晩破綻する事は目に見えており、思い切った政策転換をすべきと思いますが、市長の考えを伺いたいと思います。
過去の市政方針でも「補助金の全面的見直し、又、情勢の変化に応じた事業の見直し」等述べていますが、どの程度見直す事が出来たのでしょうか。この点についても、言葉だけの見直しに終わり、先送りの状況ではないでしょうか。補助金については、ゼロからスタートしエントリー

制度とし、三郷市制にとり真に行政が補助すべきか、個人や団体の自主的運営に止めるかを厳正に審査し直す事が必要と思います。又、各種施策についても、行政がすべて行うと言う「自前主義」は改めるべきと思います。自前主義は、お金がなくなれば「何もやらない主義、出来ない主義」に成ってしまいます。市民ボランティア、NPO、企業も含め多くの知恵と資金を積極的に受け入れ協働協力の政策を考えるべきと思いますが。市長の考えを伺いたいと思います。この問題については、過去に質問をしましたが、あえて再度伺いたいと思います。
財政健全化計画の中で、平成17年度には、開発公社所有の債務を本会計に繰り入れると言う事に成ります。それに伴う新たな財源は、約10億と言われています。又、政府の進める三位一体改革は、自治体に取って楽観する事は出来ず、新たな財源の確保や改革に取り組む事により効率的な財政運営が必要に成ります。今後の財政運営の見通しについて市長に伺いたいと思います。
　次にシルバー元気塾についてお伺いします。
この問題は、過去3度一般質問をしてきました。シルバー元気塾の事業のすばらしさは、元気塾の受講者、あるいは、全国の多くの自治体、又、マスコミ関係者が認める処と思いますが、肝腎の三郷市自身が気付いていない処にこの事業の不幸がある様に思います。私は、受講者の方から直接「歩けるようになりシルバー元気塾はすばらしい。毎回参加している。これがなかったら寝たきりに成っていたかも」という話を先日の特別講座の時にも伺いました。ここでも寝たきりの方を救う事が出来、本人だけでなく、どれだけご家族にとっても幸せな生活が実現出来たかを、思い伺うことが出来ました。私は、過去の質問でも、事業として独立した事業にすべきではないか、且つ常設の施設を学校統廃合により設置すべきと何度も訴えました。しかし、答弁は現在の事業スタイルを一歩も出ない答弁ばかりでした。時は刻々と刻み、その遅れがどれだけ救える方を置き去りにしてしまうのかと思うと、とても残念な思いです。
　シルバー元気塾の活動の有効性を考えたとき、何故、高齢者に限った事業としての捉え方しか出来ないのか、この点でも三郷市の考え方が理解出来ません。健康については年齢、男女を問わず関心があることで、多くの市民の要望があるこの事業を若年層にも広げ、一大健康増進事業にすべきと思いますが、三郷市は、その様な政策は持っていない様です。何故、高齢者に限った事業としか考えていないのか、その本当の理由を伺いたいと思います。
　私は、行政が市民に対し施策として行える事業は、安全、安心な街作り、環境豊かな街作り等々私たちを取り巻く様々施策があると思います。

そんな中で、行政自ら、市民の健康管理をする事は「個人、家族、社会にとっても究極の行政ではないかと思います」そう考えると、シルバー元気塾の事業を全市民的事業へ展開する事は当然の様に考えなければ成らないと思いますが、市長の考えを伺いたいと思います。

シルバー元気塾の活動の効果を知った市内の事業者の中には、社員の健康管理にシルバー元気塾を活用しようと言う考えもあります。現に、受講した社員には大変評判がよく、是非多くの方に知ってほしいと言う声も聞いています。特に、中小企業の多い三郷市の事業環境を考えると、単に健康増進と言う側面に止まらず、いわば中小企業の経済活動をサポートする経済支援事業と言った事まで考える事が出来るのではないかと思います。

効果が確認出来、多くの要望、必要性のあるシルバー元気塾事業は、教育委員会生涯学習課シルバー元気塾推進係と言う枠をとうに超える評価を内外からもらっています。何故、かたくなな志向で発展を阻害しているのでしょうか。多くの可能性を秘めた事業として発展させるべきと思いますが、市長の考えを伺いたいと思います。

次に、県道越谷流山線バイパスについて伺います。

私は、当初この話が浮上したとき、流山橋の混雑解消をするために流山橋以北に建設する橋と道路と言った認識でした。しかし、担当部局に伺うと、このバイパスは、つくばエクスプレスに平行する広域道路で、つくば市へ続く、埼玉県、千葉県、茨城県を横断する基幹道路であると言う事を伺い、このバイパスの活用、又三郷市の街作りにとり市北部の極めて重要な道路であると認識をしました。この様に考えると、三郷市北部と吉川市の街作りや道路活用についての構想と言う事も当然、視野にいれ今回のバイパス計画を検討しなければと思いますが、三郷市として、どの様な位置付けと将来の街作りについて考えているか、市長の考えを伺いたいと思います。

このバイパスは、常磐道、又、武繰跡地とも交差し、そのアクセス如何によっては、周辺に及ぼす影響は極めて大きく、且つ将来を左右すると言ってもよいかと思います。特に、常磐道とのアクセスは、出入り口が1カ所しかない状況を改善出来、三郷市、吉川市南部に取っては、飛躍的に利便性を増す事になるのではないかと思います。過去2回地区説明会が開催されましたが、埼玉県主体の事業と言う事で、三郷市は説明を受けると言う立場かも知れませんが、三郷市としても当然、関係地区の皆さんと道路環境はもとより、道路活用について、又、将来、地区の皆さんがどう街作りを考えているか、今必要なことは何か等々様な意見を聞く、又、協議をする事が必要と思います。三郷市としてのどの様な対

応してゆくのか伺いたいと思います。
　又、このバイパスは、将来の吉川市との合併という事を考えると、両市にとりいかに道路を街作りに活用するか、場合によっては、常磐道とのアクセス武繰跡地の開発等々両市一丸となって関係当局に要請をすると言う事も必要に成るのではないかと思いますが、今までの経過の中でどの様な話し合いが行われてきたか伺いたいと思います。三郷市だけの利害を超え、両市が協議する事が必要と思いますが市長の考えを伺いたいと思います。
次に、環境問題について伺います。
今年の冬は例年にも増して暖冬で、日々の暮らしは過ごしやすいと言う事もありますが、経済活動には様々な影響が予想される処です。地球温暖化は、我々自らが自覚を持って取り組まなければ成らない処まできていると思います。行政としても環境に対する取り組み、又、市民に対し環境についての啓蒙活動等、実践しなければ成らない課題が多々であると思います。
そこで具体的な問題として、市庁舎周辺のビル風を利用した風力発電施設を建設してはどうかと思いますが、市長の環境に対する考えと具体的施策についてどの様に考えているか伺います。
環境施策と言うのは、頭で考えると言うよりは、まず具体的事例により五官に訴えると言う事が必要なのではないでしょうか。12月補正で公用車を購入すると言う事が提案されましたが、従来通りの購入の考えでなく、環境に優しい公用車に換え市内を走ると言う事も重要な事ではないでしょうか。検討し直す考えがあるかを伺って一問目を終わります。